

新たな公共交通不便地域対策の検討



概要

鉄道駅やバス停留所から遠い「公共交通不便地域」は、区内の20.2%を占めている。小型バスの導入も困難な狭あいな道路が多いことから、新たな対策として、ワゴン車を活用した住民主体のコミュニティ交通の検討をする。

想定される効果

メインターゲットである高齢者が住み慣れた地域で自立して暮らし続けられるよう、買い物等の生活支援や外出機会の確保を狙う。

これまでの検討の経緯

勉強会の開催や協議会を設立し、ワゴン車を活用したコミュニティ交通の導入に向けた検討

定時定路線型の需要予測アンケート実施

- ・ 定時定路線型で見えてきた課題
- ・ AIを活用したデマンド型交通導入の動き

地域公共交通会議で運行形態に関する意見交換

令和4年度の進め方

デマンド型の需要予測アンケートの実施

定時定路線型とデマンド型を比較・分析

運行形態を決定する

令和5年度の実証運行開始を目指す